

8・15終戦記念日宣伝行動・同盟北海道本部



No.375

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連
会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

治安維持法廃止60年の節目を 学習と署名・会員の拡大で迎えよう

連日の猛暑のなか、激しく熱い選挙戦がたたかわれています。
本号を手にとられる時は、すでにその結果は明らかになっています。
すでに選挙戦を国民の前に、自民、民主各党は、全世界に宣言した憲法9条を捨ててアメリカ軍とともに戦争する国への憲法改悪案を示しています。
私たち同盟は、全国的に展開した8・15宣伝行動の成果に確信をもって、三千をこえる「9条の会」の人々とともに、「アメリカの戦争に加担する憲法改悪反対!」「若ものを戦場に送るな!」「ふたたび戦争と暗黒政治を許すな!」の声をひろげていきましょう。
この秋10月15日は、治安維持法が廃止されて六〇年です。同盟は、戦後六〇年にふさわしい画期的なつどいとしてシンポジウム「戦後民主主義と治安維持法を問う」を開催して、過去の侵略戦争と暗黒政治の責任追及、治安維持法犠牲者をふくむ戦後補償など、同盟運動の展望を学びます。
また11月4、5日は、同盟の「第16回全国女性交流集会」を開き、女性の権利を学び女性部の全国交流を行います。同盟のいっそうの発展をめざし、五〇万署名、会員の拡大へ、団結してこの秋をたたかきましょう。

主 な 記 事

- 中央三役会議開く……………2
- 国連ツアー報告……………3
- 六〇年目の夏／松崎濱子……………4
- 顕彰碑／平澤計七……………5
- 抵抗の群像／小川正治……………6
- 同盟歌壇／碓田のぼる選……………7
- 書棚／「私の戦後六〇年」不破哲三著……………7
- 8・15終戦記念日行動……………8

重大な衆議院解散・総選挙をむかえ 中央三役会議開く

「改革の本丸」と称した「郵政民営化」法案が参議院で否決されたことから、無謀にも小泉総理は国会を解散しました。

また、同盟の独自活動を強め、当面の課題としてつぎのことを確認しました。

同盟中央本部は、8月18日三役会議を開き、総選挙に対する同盟としての考えを討議し、各都道府県同盟に「重大な衆議院解散・総選挙をむかえ 会員の皆さんの奮闘を訴える」のアピールを出し

一、私たち同盟は、会員の政治・選挙活動の自由を守るとともに、「再び戦争と暗黒政治を許さない」「戦争に反対したがために治安維持法弾圧を受けた犠牲者に対する国の謝罪と賠償」を実現す

戦後60周年・治安維持法廃止60周年記念

戦後も生きている特高官僚。戦後民主主義を否定する新たな潮流。憲法改憲と女性の権利など、同盟への新たな期待を求めています。

シンポジウム

戦後民主主義と治安維持法を問う

とき

10月15日(土)

午後1時15分～5時

パネリスト

柳河瀬 精

吉岡 吉典

平山 知子

コーディネーター

浜林 正夫

一橋大名誉教授

会費 一〇〇〇円

全労連会館2階ホール

同盟大阪府本部会長
前参議院議員
弁護士・元日弁連副会長の平
等に関する委員会委員長

る政治を求めて小泉反動政治を糾弾し、草の根から選挙戦勝利と同盟の前進をめざす。

二、選挙戦直後から開催予定されている各ブロック会議の成功をめざし、選挙戦もふくむ活動交流と目標実現への決意を固め合う。

三、10月15日のシンポジウム戦後民主主義と治安維持法を問う(於東京・全労連会館)を成功させ、同盟運動に新たな展望と発展をめざす。

四、11月4～5日の全国女性交流集会(於熱海市・池田ホテル)に全都道府県から参加をもちとり、学習と女性部の交流を深める。

さらに、大会後の中央本部の専門部体制を確認。本部事務局員に東京から小池壮市氏の採用、および斉藤邦雄事務局局長が胃がんの手術で入院したため、針谷宏一事務局次長を事務局局長代理とすることを確認。なお、斉藤邦雄事務局局長は、8月18日、胃の摘出手術を行いました。経過は順調で二週間位で退院の予定です。

〔追加・紹介議員〕

衆議院―石井和雄・民主、鳩山由

紀夫・民主

参議院―浅尾慶一郎・民主



今回の教科書採択でも、「つくる会」等かなりふりかまわぬ策動を展開しましたが、〇・五%以下

という結果(8・19大阪教研での報告)でした。だが、こんな危い教科書は一冊たりとも子どもたちに渡してはならないのです。たたかいは続きます。埼玉ではこの教科書を高く評価する知事が、昨年末県民の大反対を押し切って「つくる会」副会長を県教育委員に据えましたが、採択はゼロでした。教組、市民団体等が力を合わせて運動。展示会場では多くの父母・市民もこの教科書をよみ、怒りをこめて意見書を出しました。さて、この七月に県教育委員に就任したNHK気象予報士平井信行さんは(教科書は)大事なのは学校と生徒にとっていいものを選ぶことがメインでしょう」と述べ「気象観測は国際協力なしでは成り立たない……軍事上の機密として戦争中の国からデータはこない。天気予報があることは平和の象徴」と語ります。(埼玉新聞8・23)まさに至言です。

戦前の弾圧犠牲者、戦争犠牲者に戦後補償を 国連人権委員会に同盟代表が発言 (国連ツアー)

同盟の斎藤久枝国際部長は、7月28日、スイスのジュネーブで開かれた国連人権促進保護小委員会に国際民主法律家協会代表として出席、国連専門委員、各国政府代表、NGO代表など二〇〇人余りに対して発言しました。

天皇制政府は侵略戦争をすすめるために制定した治安維持法によって反戦、民主主義を徹底的に弾圧したこと、さらに戦後は中国侵略による虐殺と人権侵害に対する謝罪と賠償を求める六〇件におよぶ裁判があることを指摘、日本政府の戦後補償が遅れていることを鋭く指摘、注目を集めました。

国連ツアーは橋本幸夫団長、塩田一行副団長、鈴木光子事務局長、事務局に風間秀子さん、安藤郁子さんら一行が、国連での活動とツアーの日程を成功裡にこなし、多くの成果をあげました。

今回の国連活動の特徴としては、
①ツアーの参加を友好団体にもよびかけたことから、参加者の層

が広がったこと。

②フリーフィンゲ(解説と討議)が今年は七〇名以上と最高の参加者数となったこと、ジャパンデー(同盟主催のパーティ)に諸外国



国際NGOなどと交流する
ジャパンデー

の国際NGO関係など一〇〇名以上に参加者が増えたこと。

③ヒロシマ60周年集会、ランチ・タイム・フリーフィンゲなど他のNGOとの共同が進んだこと。

④ツアー参加者からの同盟入会者が増えたことがあげられます。

斎藤久枝国際部長の発言要旨

まず私は一九二五年から四五年にかけて施行された比類なき人権弾圧法、治安維持法犠牲者の日本政府への謝罪と賠償要求に対して、当小委員会が特別の配慮をはかってくださるようお願いいたします。

一九三一年から四五年まで中国、アジア太平洋地域への侵略戦争を遂行するために、天皇制政府は治安維持法による弾圧を行いました。この悪法を武器として戦時体制への抵抗者、批判者はすべて封殺され、言論、思想、信条の自由はことごとく奪われました。ドイツのゲシュタポのように思想警察「特高」は思うままに悪法を使い、思想検事がそれに協力して徹底的に弾圧したのです。数十万人が逮捕され、虐殺された者八〇名以上、拷問、虐待、病気等での獄死者一六〇〇名以上にのぼっています。

第二次大戦から六〇年をへた現在、ドイツ、イタリア、フランスの抵抗運動家たち、大戦中の日系

アメリカ人の強制収容に対してなど多くの国々で戦争犠牲者に対して謝罪と賠償を行っています。それにひきかえ、日本政府は侵略戦争や国内での弾圧の事実を認めず、そのため六〇件におよぶ日本軍国主義、植民地主義、侵略戦争による犠牲者の訴訟や国家賠償要求の運動が広がっています。治安維持法、中国人、朝鮮人の強制連行・強制労働、従軍慰安婦、インドネシア強制収容所等、侵略戦争の被害者達は、日本政府に「謝罪と賠償を」の声をあげています。

戦後六〇年、これらの犠牲者は高齢化し、年ごとに生存者の数は減少しています。「この胸の傷は国家に謝ってもらわないと治りません。治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を」と92歳の女性生存者は訴えています。この要求を実現することは、現在イラクなど世界中の進行している軍事作戦による人権侵害の防止とも大いにかかわっています。私は、当小委員会に、第二次世界大戦中の日本軍国主義による人権侵害のさまざまなケースを調査していただき、全世界から人権と人道に反する罪をなくすガイドラインの確立を訴えます。

六〇年目の夏

歴史の逆戻りは

許さない

松崎濱子



戦前の日本は、天皇が絶対的権力を握り、侵略戦争をおしすすめ、他国を植民地支配し、自由がなく、働く人たちの権利が保障されない社会でした。

「バラの会」で団結強めて

高等女学校を卒業した私が、東京地下鉄道株式会社に就職した一九三二(昭和6)年は、日本が中国侵略を本格化する満州事変が起こり、世界大恐怖の影響を受けて、生活を守る国民的なたたかいが広がりをみせた時期でした。

入社後まもなく会社側は、人件

費削減を目的に、私たちに對し、「女子従業員を増やすために一日九〇銭の給料を七〇銭に下げる」と通告。当時、ラーメン一杯の値段が一〇銭でした。仕方がないと諦めた私たちに、一人の車掌さんが「キミたちはそれでいいのか」と語りかけました。胸にしみる声でした。

当時、日本労働組合全国協議会(全協)は、日本交通運輸労働組合地下鉄分会を組織していました。「職場に労組をつくり、団結の力で要求を獲得し、戦争をやめさせ、平和を守り、貧乏をなくそう」というオルグ(労働組合の組織者)の訴えに共感し、私は労働組合に入りました。

私たち女子職員は「バラの会」、男子職員は「うどん会」という、組合員以外の全従業員が加入する、職場の状況について語り合える場をつくりました。賃下げへの不満、地下の換気の悪い状況や残業が重なり、死亡した女子職員の問題、徴兵された男子職員を解雇するという会社の不当なやり方への怒りがうずまき、ストライキの気運が高まりました。

私は出征中、給与を支給せよ」

「勤務時間は実働七時間」「便所を各駅に」などの要求をまとめ、ストの準備をすすめました。そのなかで、共産青年同盟や日本共産党と出会い、私は、東京地下鉄の日本共産党細胞(支部)の一員として活動しました。

警察での拷問

当時、非法の日本共産党は、天皇制政府が中国侵略を本格化する情勢下で戦争に反対し、労働者の要求を実現するためにたたかっていました。

一九三二(昭和7)年3月19日未明、「もぐら争議」といわれた地下鉄ストに突入しました。市民がストを応援したり、他の電鉄会社にも影響がおよぶことを恐れて、会社側は、出征兵士に差額賃金を支給する、女子の賃金を九〇銭に戻す、病気による辞職勧告は行わないなど、二十一項目の要求に応じ、私たちは勝利しました。労働者が無権利状態の当時で、ストライキ闘争の勝利は画期的でした。

しかし、侵略戦争の本格化にもない、反戦運動の根を断とうと、日本共産党と民主運動への弾圧は

激しさを増し、4月18日、組合員の多くが検挙され、私も警察署に留置され、殴る蹴るの拷問を受けました。同年10月には、約一五〇〇人の党員、共産青年同盟員、全協の活動家が逮捕され、日本共産党中央委員の岩田義道が殺されました。翌三三年には、小林多喜二も逮捕、虐殺されました。

私も闘いの一員となって

一九二五(大正14)年から実施された治安維持法による拷問などで命を落とした人は、わかつているだけでも一六八二人にもおよびます。戦後、一九六八年に治安維持法などで弾圧された犠牲者たちに対する国の謝罪・賠償を求めて治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟がつくられました。

戦後六〇年のいま、日本共産党も同盟も、戦争の時代への逆戻りを許さず、憲法やくらしをまもる闘いの先頭に立っています。私もその一員として、国民に痛みを強いる小泉政権に歯止めをかけ、国民が幸せにくらせる世の中にするために力を尽くしたいと思いません。

(同盟中央顧問)

顕彰碑

||||| 振動

わが国労働運動の先駆者、 亀戸事件の犠牲者

平澤計七追悼の碑



一九三三年九月三日の夜遅く、大地震の余震のまだ燃る東京・江東。仲間の救援活動から疲れて帰って来た平澤計七は休む間もなく、亀戸署の警官の「ちょっと来てくれ」の言葉に従って出て行っただけで二度と戻りませんでした。近衛師団の習志野十三騎兵連隊によって虐殺されたのです。三十四歳でした。

亀戸事件の犠牲者の一人で大正期の労働運動史上また労働演劇史上卓抜した人物との評価を受けている平澤計七は、一八八九年七月十四日新潟県北魚沼郡小千谷町（現小千谷市）の鍛冶職人の父福平、母セイの長男として生まれま

した。小千谷尋常小学校を卒業した計七は父の就職先の大宮町（現さいたま市）に転居。大宮小学校高等科を卒業し、日鉄大宮工場の職工になりました。

急激に資本主義的収奪の進む中で、なかなか職人氣質の抜けない当時の労働者の悲惨な生活を自身体験した計七は、労働者の生活向上の運動にその生涯を注ぎました。労働者の意識の向上を図るため、自ら脚本を書くなどした労働演劇活動があります。また生協や労働金庫を創設するなどその先駆的活動は多岐にわたります。

一九九七年、計七が愛した故郷小千谷の町が一望できる山本山中腹のポケットパークに、有志の手で「平澤計七追悼の碑」が建立されました。

【追記】計七の追悼碑への道路は先の中越大地震で被災し車では途中までしか行けません。また計七地蔵のある母方の墓はまだ修復の手もつけられていません。

（小千谷支部 平澤恒美）

● 同盟運動の原点を学ぶ最適の学習誌！

治安維持法と現代 秋季号

原稿を募集します

終戦60周年、治安維持法廃止60周年。日本はいま重大な岐路に立っています。暴圧に抗してたたかった先達の願いが刻み込まれた憲法を守り抜かなければなりません。そのためにも同盟運動を深く広く発展させることが求められます。ふるって応募ください。

【募集内容】

■ 「私と治安維持法」― 実体験だけでなく現代の視点からの思いを募集します。二千字以内。

■ 政治評論など同盟の理念にたつた主張や運動論、戦争と平和、民主主義、人権問題などについての論考。六千字以内。

■ 治安維持法の諸事件や弾圧・犠牲の掘り起こし、顕彰に関するレポート。八千字以内。

締切り 10月5日（厳守）。

【バックナンバー】

お求めについて

本誌はこれまでに9号まで発行してきましたが、最近バックナンバーを取り揃えたいと申し込まれる方が増えています。

すでに創刊号は品切れになっていますが、2・9号はまだ残部がありますのでお申し込みください。

『治安維持法と現代』編集委員会



抵抗の群像

獄死した若き指導者

小川正治


 近江谷昭二郎
(秋田県本部会長)

小川正治は一九四二(昭和17)年8月18日、東京・巣鴨拘留所で獄死した。弱冠27歳の短い生涯であった。

彼は一九一四(大正3)年5月2日、秋田県十文字町新聞で貧農の長男として生れた。

正治が11歳の時、両親は離婚し、父はその後北海道に渡った。

彼は高等小学校を終えるとすぐに作男に出されたが、夜遊びなどもせず、高等科の教師からひそかに本を借りたりして、むさぼるように読書に熱中しはじめたのである。

そのなかで、同じ部落にいた小松啓一郎(同じく共産党入党)と社会科学研究会をもつようになり、急速に社会の矛盾に目覚めていった。

十七歳で全農の常任に

一九三二(昭和6)年、彼が17歳のとき、鶴沼勇四郎(共産党秋田県組織再建責任者・獄死)を知って全農県連十文字地区の常任となった。また同年8月には、結成された全農青年部県連の執行委員に選ばれている。

平鹿郡の小作争議の指導や県会議員選挙で、全農推薦候補の弁士などをして活動している。

こうした闘いをおして社会進歩への道を確認した彼は、18歳で日本共産党に入党した。

全農全国会議を支持してたたかった彼は、一九三二(昭和7)年一月全農県連の刷新を要求して県連事務所に通殺した事件で暴力行為等で懲役六カ月の刑を受けた。

同年春に保釈出獄となり、以後、全農全国会議雄勝地区協議会の常任書記として、雄勝地方の小作争議の指導に奔走する。

拷問にも屈せず
たたかう

しかし一九三二年11月、鶴沼勇四郎らとともに治安維持法違反で検挙され、非転向で懲役四年の実刑を受け服役している。

この弾圧は、全農全国会議の活動家一〇二人を検挙し、二三人の共産党員を起訴した「秋田共産党事件」と言われている。

懲役四年の刑を終えて家に帰ったとき、身の丈6尺近い彼の体は弱り切っていた。顔は病人のように青白くやせ細っていた。彼は酒も飲まず煙草も吸わなかった。

このあと、半年あまりを弟正作の所でのんびりと過ごし、激しく拷問された正治の心身を癒やしている。

京浜の労働運動の中へ

春がくると、彼は上京した。神奈川の工場労働に従事した。

彼は、折から京浜地区で共産党再建のために活躍していた春日正一を中心とするグループと合流してたたかうことに恵まれた。

一九四〇(昭和15)年7月、鶴見の工場へのピラ入れのさいに検挙され、徹底した拷問と同時に転向を強要されたが、翌年2月、治安維持法違反で起訴され、獄死したのである。

不屈の生涯を
語り伝えよう

北海道に渡っていた正治の父が死体を受け取りに行ったとき、刑務所では「遅い」と怒鳴られ、慰めの言葉は一つもなかったという。

正治の体には内出血の後が幾つもあり、そこが傷になっていた。彼の体と一緒に渡されたものは、風呂敷包み一つだった。

正治は、17歳で農民運動に身を投じ、27歳で獄死するまでの一〇年間のうち、三回も投獄されており、実に5年半を獄中で過ごしている。

自分の信念を貫き通した彼の不屈の姿を、風化させず、語り伝えなければならない。

同盟歌壇

碓田のぼる選

静岡県 江川 佐一

ボールペン握れば心震えくる党の訴えに送る供託金募金
懸命に糸たぐりいし一匹の蜘蛛の落下に目をすえており

〔評〕一首目、党の総選挙の募金の訴えに心をたぎらせる作者の姿
が浮かぶ。二首目の世界、芥川竜之介の小説世界を思わせる。

岐阜県 和田 昌三

「生涯を労働のために尽くせり」と可児義雄の碑に刻まれて居り
郡上節唄いつつ帰る人も居て縁日踊り終りたるらし

〔評〕可児義雄は郷土の生んだ先覚者で、作者が深い敬愛をもつ。
後歌、祭りの果てたあとの、ほっとした感じを表現している。

埼玉県 寺島 清文

土屋文明直筆の三首が刻まれし千代子顕彰碑夏日に耀けり
賢しくて美しき乙女千代子がこゝ土屋文明の歌にせつせつ

〔評〕二首とも、治安維持法下に二十四歳の命を奪われた伊藤千代
子を歌った土屋文明の作品への感慨。顕彰碑は諏訪湖畔に建つ。

東京都 若林 義文

秘めおきし吾が反戦は街頭に堰切る如く迸り出づ

〔評〕戦後六十年の夏の街頭に、切々と訴える作者の反戦の意志。

新潟県 加茂川ハル子

配給の薪にて弟を骨にせりと六十年後の今老人は語る

〔評〕死んだ弟を焼く燃料さえ乏しかった戦争下の悲しみである。

東京都 山崎 元

多喜一ゆかりの街は「扶桑社本」採択す恥辱こらえてたぎれる怒り

〔評〕歴史をゆがめた教科書を採用した杉並区。怒りがこもる。

書棚

『私の戦後六〇年』

日本共産党議長証言

不破哲三著 新潮社(本体一七〇〇円)

こんどの総選挙。日本共産党の「たしかな野党」のキャッチフレーズが、好評です。それを裏書きするように、新潮社の伊藤幸人出版企画部長が、本書を同社の戦後六〇年の目玉商品の一つとして出版したいきさつを語っています。

「日本共産党は戦後六〇年、政権の座についたことがなく、政治のなかで主流でなかったかもしれ

ない。そういう立場だからこそ見えてくる時代の実相、真相がある

のではない。政治的立場を超えて、戦後六〇年をもう一度考え直すヒントが詰まっていると思う」

本書はタイトルからも自分史的戦後政治史。しかし「日本共産党議長証言」にふさわしく、六〇年間の体験を主に内外の資料を駆使しています。

「政治にとって政治家にとって、歴史とは絶えず検証し続けるべきテーマであり、——不破氏存在と視点がもしなかりせば、その後の日本共産党とわが国の政治はどのような軌跡をたどったか、またこれからの政治がどのように行われていくのか、考えれば興味は尽きない」

(元)

目次・構成	
序章 終戦まで	佐藤栄作首相の場合
第一章 あの戦争は何だったのか	田中角栄首相の場合
第二章 占領時代と新憲法	三木武夫首相の場合
第三章 日米安保条約	福田起夫首相と大平正芳首相の場合
第四章 「日米核密約」	田中角栄首相と「日米核密約」
第五章 ベトナム戦争	田中角栄氏と「日本列島改造論」
第六章 田中角栄氏と「日本列島改造論」	田中角栄氏と「日本列島改造論」
第七章 七〇年代・国会の活力	第一〇章 ソ連崩壊、その後の世界
第八章 「日米核密約」	第八章 「日米核密約」
第九章 北朝鮮問題と「真和解」	第九章 北朝鮮問題と「真和解」
第十章 野党外交を展開して	第十章 野党外交を展開して
第十一章 二二世紀の日本を	第十一章 二二世紀の日本を
第十二章 インタビューを終えて(角谷浩一)	第十二章 インタビューを終えて(角谷浩一)

8・15終戦記念日に各地で街頭宣伝行動

北海道

八月十五日六〇年目の終戦記念日、暑い日照りのなか、札幌の中心繁華街で同盟道本部と札幌支部の会員十五名が参加して全国統一街頭宣伝をおこないました。

北海道

宣伝力に豊三枚大の看板を掲げ、「憲法九条は世界に誇れる宝・平和の道しるべ」のピラミッドを配布しました。車上からの五名の弁士が、「二度と日本を戦争する国にしてはならない」、「日の丸・君が代の強制」反対、「靖国参拝」「戦争美化の歴史教科書」許されない、「共謀罪」制定の策動もすめられているなど、まさに歴史の転換点にたついま、「ふ



たたび戦争と暗黒政治許さず」の訴えは、道行く人の足を止め、話し込む人もでて、署名にも三十五人の協力がよせられました。

福岡

八月十五日の終戦記念日は正午から一時まで、福岡市天神の三越前で治安維持法同盟福岡支部の役員七名が交互に憲法九条は世界に誇れる宝と訴え、用意した、不屈号外を通行人に手渡ししました。(写真上)

号外を受取ったある主婦は、じつと立ち止まって読んだあと、「この号外のとおりです。戦争は二度としてはなりません。がんばってください」といって立ち去りました。

鹿児島

県本部は八月十五日午前11時25分からJR鹿児島中央駅前、総勢五名が「不屈」号外を三〇〇枚配布。配布活動にはじめて参加した新婦人の会長は、「よいピラ」と感想を語っていました。始良支部でも会員三名で三〇〇枚、県全体では三〇〇枚配布しました。

第16回全国女性交流集会へ

とき 11月4日(金)午後1時開会(5日(土)正午)
ところ 熱海市・ホテル池田
熱海市東海岸12-40 TEL〇五七-81-九一六一

記念講演・女性の人権を花咲かせるために

―戦前・戦後、そして未来に向かって―(仮題)

講師・平山知子(弁護士・元日弁連両性の平等に関する委員会委員長)

参加要領は次号に紹介

各県最低一名を送り出しましょう

訃報

戎谷春松さんが死去

〈寄贈図書〉

『地下水、

その噴き出するを願って』

七月二十八日午後6時5分、心

―熊本治安維持法犠牲者

不全のため入院先の東京・立川市の病院で死去されました。96歳。

その名簿と足跡―

戎谷さんは、一九〇八(明治41)

梶原 定義 編

年8月6日、徳島県海部郡牟岐町

領価一四〇〇円

で生まれ、二三(大正12)年大阪

で高等小学校卒、労働者となり上

事務局日誌

京。三一(昭和6)年全協日本化

8月3日(8月13日) 国連要請ツ

学のオルグ、日本共産党に入党、

ア

全協中央青年部長・全協中央委員、

8月17日 不屈編集委員会

三三(昭和8)年、治安維持法違

8月18日 中央三役会議

反で検挙され、懲役二年半。四四

8月24日 亀戸事件82周年追悼会

年出獄。戦後は日本共産党中央役

実行委員会に参加

員として活躍。同盟で顧問として

8月30日 総選挙公示

長年ご指導、ご協力をいただきま

8月30日 不屈編集委員会

した。